1 WEEK MASTER 4th DAY !!!

Thursday





今日マスターすること

TODAY'S GOAL !!!

「ちらしを作ろう（1）準備編
フォーマットを作る」

STEP 1 ••（基本変形機能でマークを作ろう

STEP 2 ••（準備編　ガイドラインを引く

1 WEEK MASTER 4th DAY !!!
Thursday

STEP 1

基本変形機能でマークを作ろう

ここでは変形テクニックを中心に、簡単に作れるマークを紹介します。今日の後半からは、ちらし作りに突入しますので、そのウォーミングアップとして、気楽に作ってください。時間があれば、各自でアレンジして仕上げてみましょう。

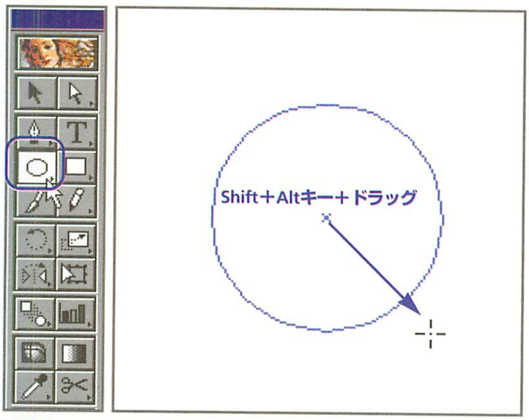
変形テクニック

図形を正確に変形する機能を紹介しましょう。ここでは回転ツールを使って練習しますが、ほかの変形ツール（拡大・縮小ツール、シアーツール、リフレクトツール）も使い方は同じですから、各自で練習してください。

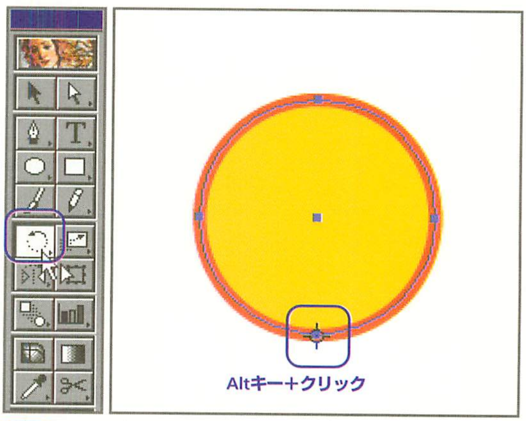
ヒント!!

［中心点（支点）の位置］

回転ツールで回転の中心点（支点）を決める場合、特にポイントやパスの上である必要はありません。図形以外の部分をクリックして中心点にすることも可能です。



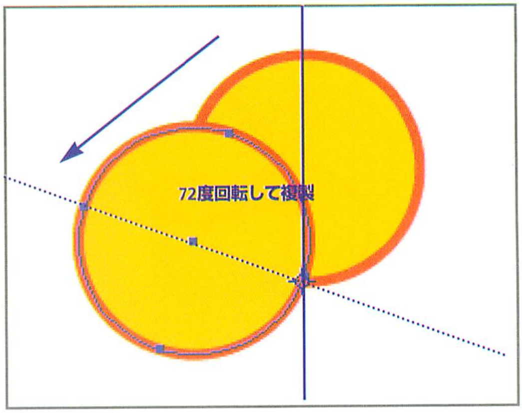
1 ツールボックスから楕円形ツールを選び、Shift＋Altキーを押しながらドラッグします。正円が描けます。描いた直後の図形は選択状態にあります。次にこれを回転しますので、選択は解除しないで、塗りと線に適当な色を指定しておいてください。



2 ツールボックスから回転ツールを選びます。回転の中心（支点）を決めるために、Altキーを押しながら円の真下側のポイントをクリックします。



3 「回転」ダイアログボックスが表示されます。「角度」に「72度」と入力して、「コピー」ボタンを押してください。

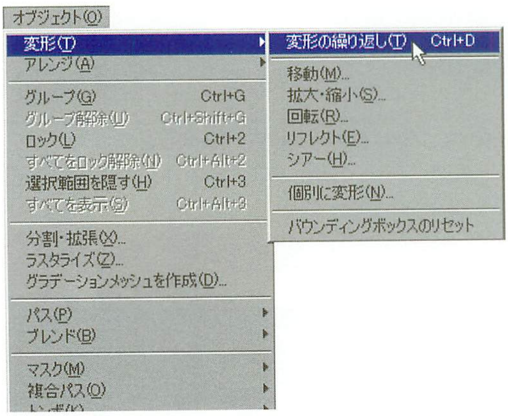


4 正円が72度回転して複製されました。

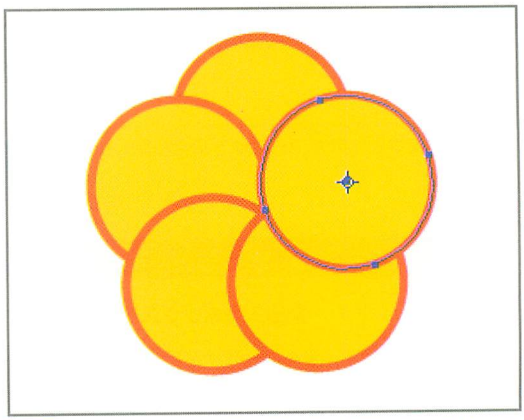
☞ヒント!!

変形の繰り返し

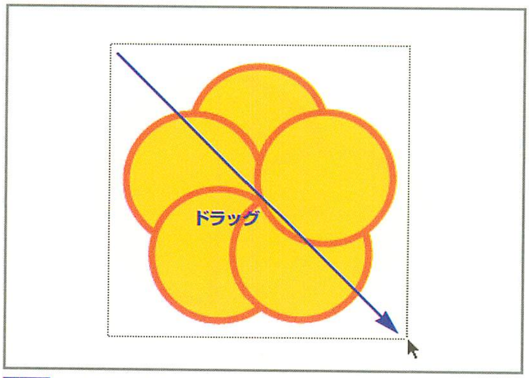
「変形の繰り返し」は、直前に行った操作を繰り返してくれる便利なコマンドです。ただし、途中で他の操作をしてしまうと利かなくなります。あくまでもひとつ前の操作を繰り返すコマンドなのです。ショートカットは、Ctrlキー＋D。duplicate（複製する）のDです。



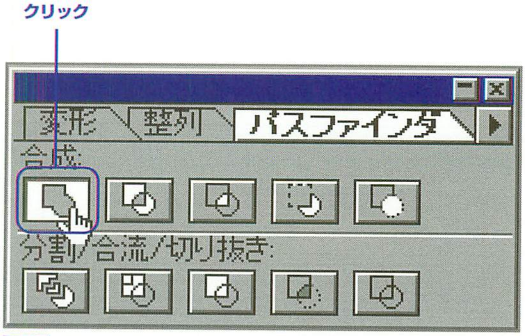
5 「オブジェクト」メニューの「変形」から「変形の繰り返し」を選びます。これは便利なので、ぜひショートカットを覚えてください。Ctrlキー＋Dです。



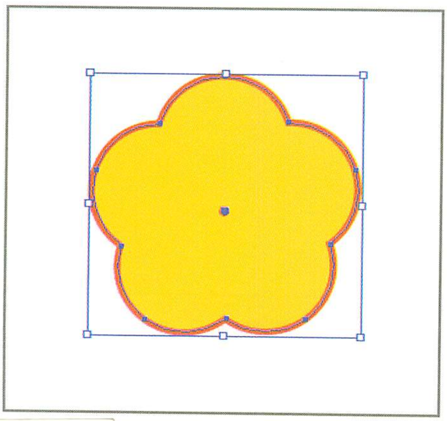
6 Ctrlキー＋Dを3度繰り返して、花びらを5個にします。



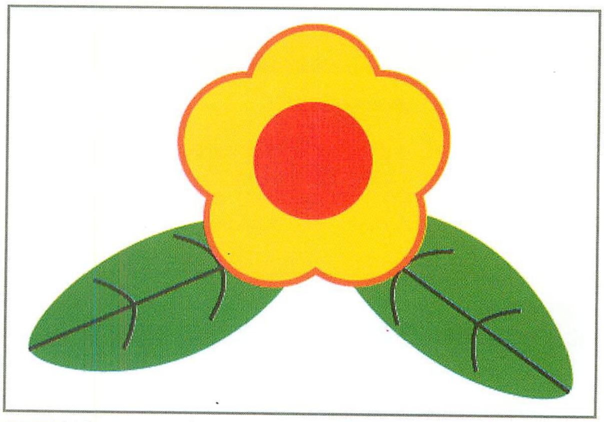
7 5つの花びら全体をひとつの図形にまとめましょう。選択ツールですべての図形を選択します。図形の一部でもドラッグの範囲内に入っていれば選択されます。また他に図形がなければ、「編集」メニューの「すべてを選択」を使っても結構です。



8 パスファインダパレットから「合体」を選びます。なお、右上の ▶をクリックして、パレットメニューから「オプションの表示」を選ぶと、「混色／トラップ」機能が使えるようになります。



9 ひとつのオブジェクトになりました。



10 各自でアレンジしてマークを作ってみましょう。

☞ヒント!!

数値入力ボックスは計算機？

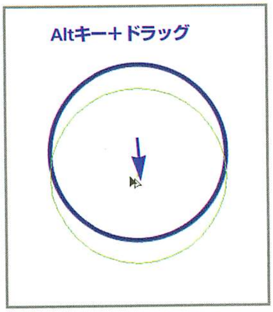
回転角度などを入力する場合の便利なテクニックを紹介しましょう。ここには式を入れることができるのです。たとえば5枚の花びらが欲しい場合、「360/5」と入力します。/は割り算を意味します。ほかに掛け算（*）、足し算（+）、引き算（－）も可能です。ただし数式は半角数字でなければいけないので、キーボードでは右側のテンキーを使ってください。



▲数式を入力して、計算させることもできます。

複製テクニック

今度は雲を作ってみます。ここでのポイントは複製のテクニックです。Photoshopなどでも利用できますから、ぜひ覚えてください。

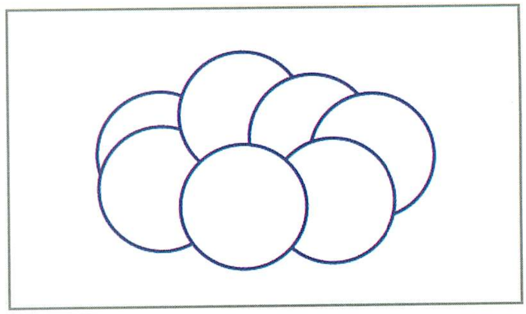


ここがポイント!!

複製のショートカット

Altキーを押しながら図形をドラッグして、図形を複製することを覚えてください。

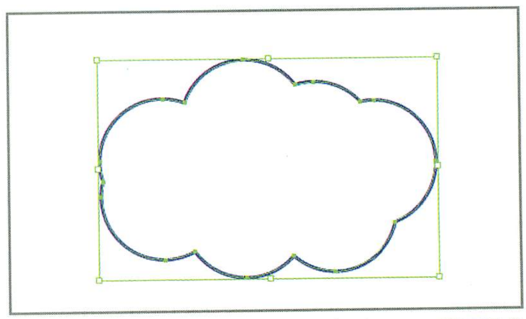
1 先ほどと同じ手順で正円を作成します。そしてAltキーを押しながら選択ツールでドラッグして複製します。



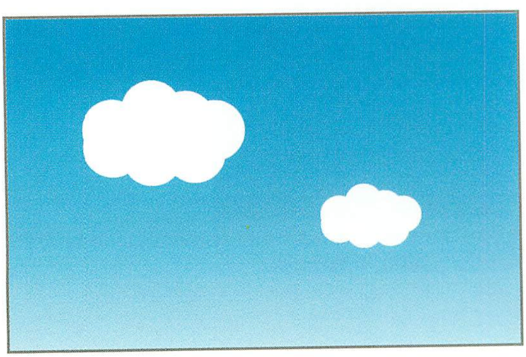
2 これを繰り返して正円を増やしてください。雲を作りますから、位置の調整なども行ってください。



3 全体を選択して、パスファインダパレットの「合体」をクリックします。



4 これで複数の円がひとつの図形になって、雲の完成です。



5 各自でアレンジして色などを塗ってみましょう。

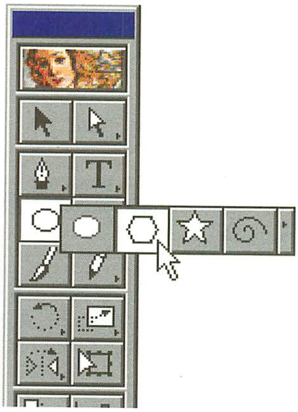
フィルタを使った変形

次に、「フィルタ」メニューのいくつかを使って、図形を変形する方法を紹介します。ちょっとした工夫で、簡単に面白い形を作り出してくれるフィルタは、実に便利で楽しい機能です。どんどん活用してください。

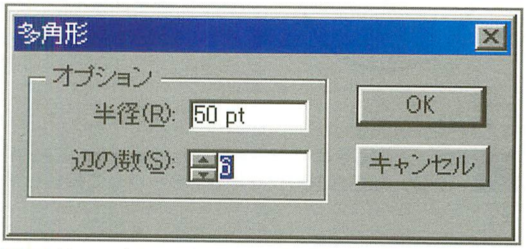
ここがポイント!!

フィルタの利用方法

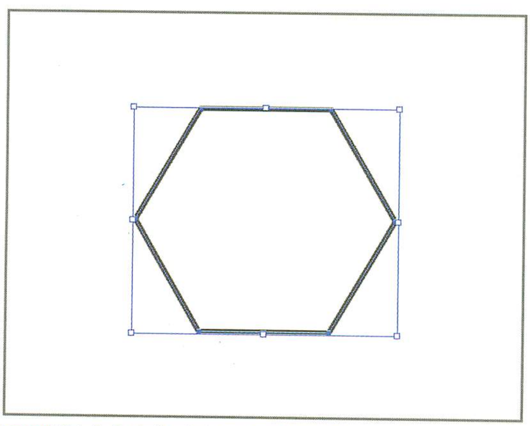
フィルタは簡単に形を変えてくれる機能です。ただやみくもに形を変えるのではなく、ある程度それぞれのコマンドの意味を理解して使うと、より効果的な使い方ができます。ここでは正六角形にフィルタを実行するところがミソ。



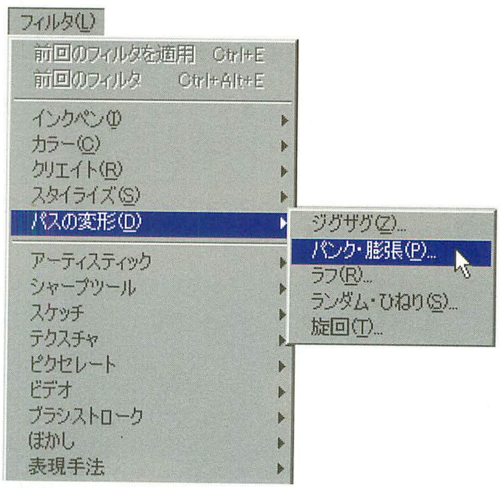
1 ツールボックスから多角形ツールを選びます。多角形ツールは楕円形ツールと同じところに収められています。



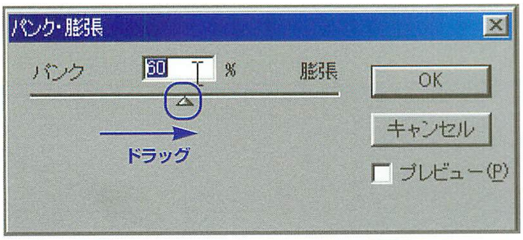
2 ドラッグして多角形を描きます。数値でサイズなどを指定する場合は、画面上をクリックしてダイアログボックスを出し、「半径」などを指定します。



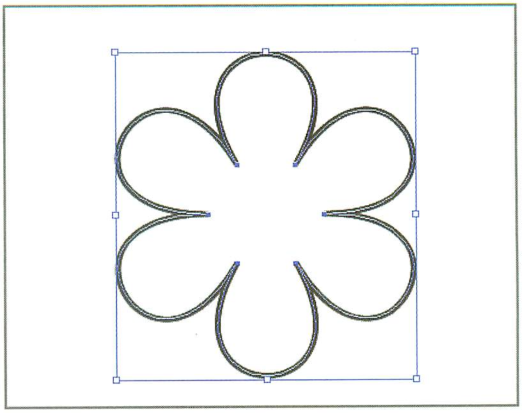
3 描かれた六角形が選択されている状態にします。



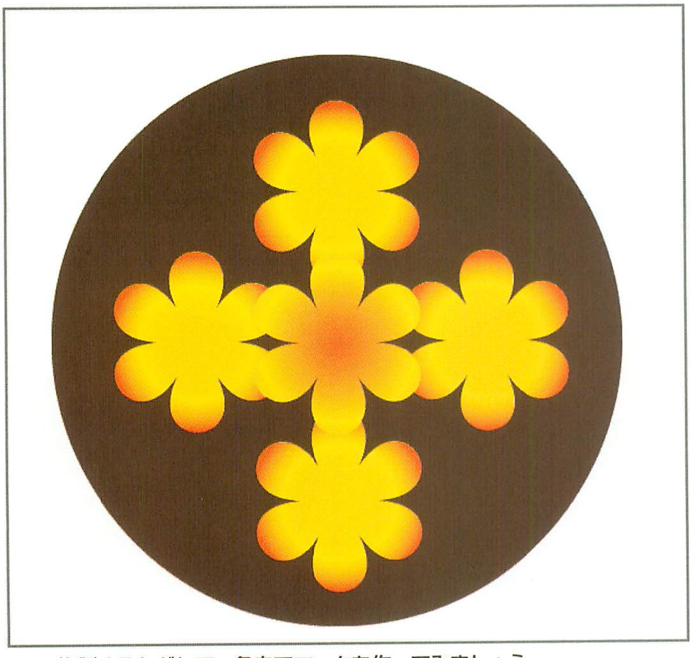
4 「フィルタ」メニューの「パスの変形」から「パンク・膨張」を選びます。



5 数値を入れるダイアログボックスが表示されます。スライダの△をドラッグするか、数値を入力します。ここでは△を「膨張」の方向（右側）に動かしてみました。



6 こんな花の形に早変わりします。これをペンツールなどで描こうと思うと大変ですが、フィルタをうまく利用すれば、あっという間に作れてしまうのです。



7 複製するなどして、各自でマークを作ってみましょう。

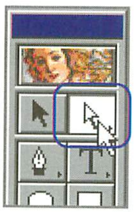
方向点切り換えツールで曲線を変形

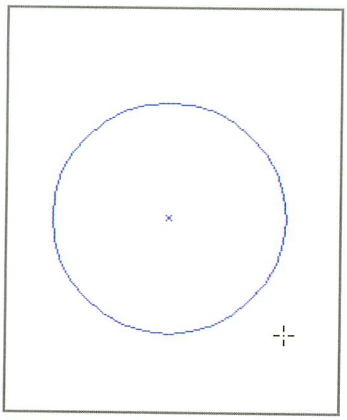
方向点切り換えツールを使って、正円をハートに作り変えてみましょう。ポイントやハンドルの先端など、目標物をきちんとつかんでドラッグすることを心掛けてください。また、選択するときはダイレクト選択ツールを、ハンドルの方向を変えるときは方向点切り換えツールを正しく使い分けてください。

ここがポイント!!

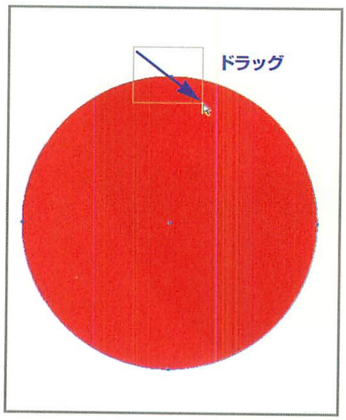
方向点切り換えツールってどんなときに使うの？

普段あまりお世話にならない方向点切り換えツールですが、実は変形するときにとても便利なツールなのです。ペンツールでハートを描くのは困難ですが、正円の曲線の方向などを変えることで、簡単にハートにすることができます。曲線の方向を変えるときは、ハンドルをドラッグします。ハンドルが表示されていないときは、ダイレクト選択ツールでクリックして表示させてください。また、ハンドルのないポイントに対しては、ポイントからドラッグすることでハンドルを作成することができます。ポイントをクリックするとハンドルがなくなります。

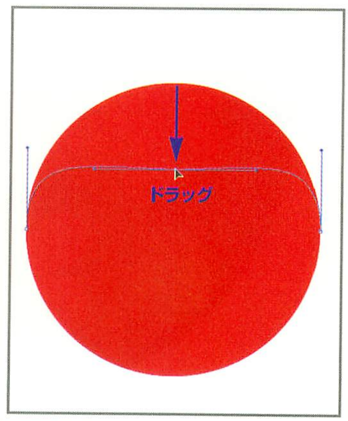




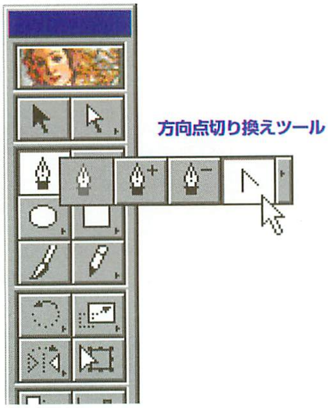
1 先ほどと同じ手順で正円を作成します。



2 ダイレクト選択ツールで正円の真上側のポイントを選択します。ドラッグで選択するのが簡単でしょう。



3 そのポイントをつかんで、下の方にドラッグします。

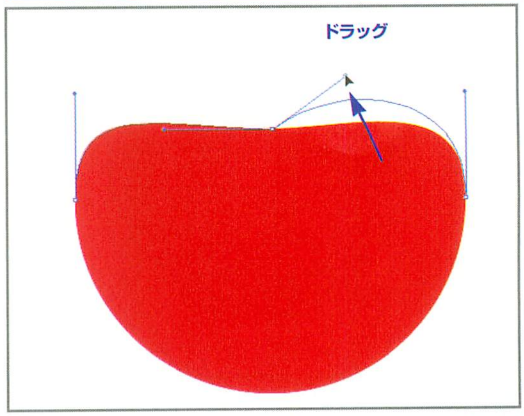


4 ここで方向点切り換えツールの出番です。ツールボックスから選んでください。方向点切り換えツールはペンツールと同じところに収められています。

ここがポイント!!

ハンドルは先端をつかもう

ハンドルを動かすときは、ハンドルの先端の丸い部分をドラッグしてください。

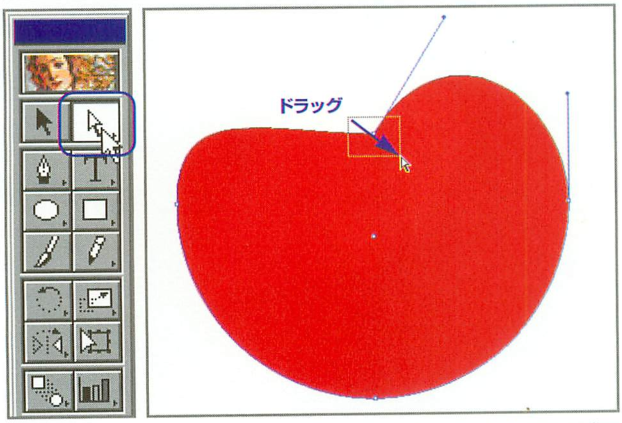


5 ハンドルを上方向にドラッグします。ハンドルは、最初は左右対称になっていますが、方向点切り換えツールでドラッグすることで、左右個別に動かすことができるのです。

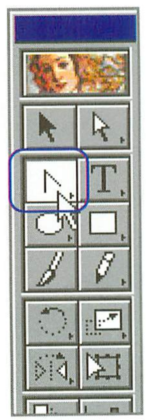
ここがポイント!!

ハンドルを表示させる方法

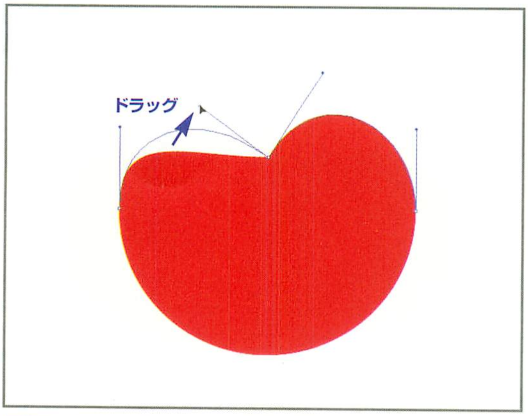
ハンドルを表示させたいときは、ポイントを選択するか、パスを選択します。



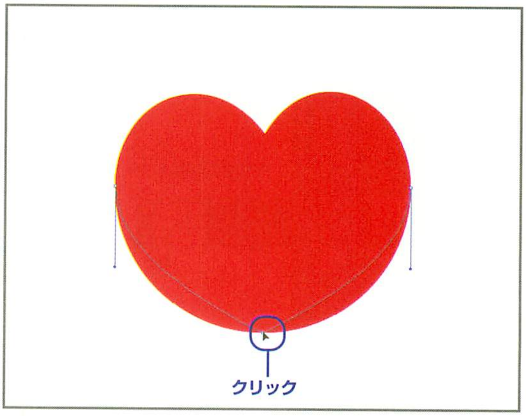
6 今度は反対側のハンドルをドラッグしましょう。ハンドルが表示されていないので、ダイレクト選択ツールで真上側のポイントをドラッグしてハンドルを表示させます。



7 ハンドルが表示されたら、もう一度ツールボックスから方向点切り換えツールを選びます。



8 ハンドルを上方向へドラッグします。

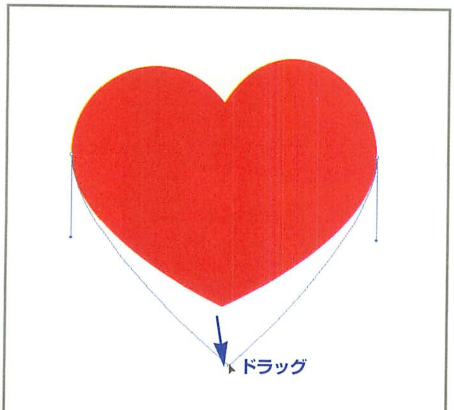


9 今度は真下部分を調整してハートっぽく変形しましょう。真下側のポイントを方向切り換えツールでクリックします。これでハンドルがなくなり、直線的になります。

☞ヒント!!

ハートの下半分のアレンジ

ここでは方向点切り換えツールでクリックしてハンドルをなくしましたが、ハートの上の部分を調整したように、ハンドルを左右個別に変形しても結構です。



10 ダイレクト選択ツールでポイントの位置をちょっと下へ動かして、完成です。

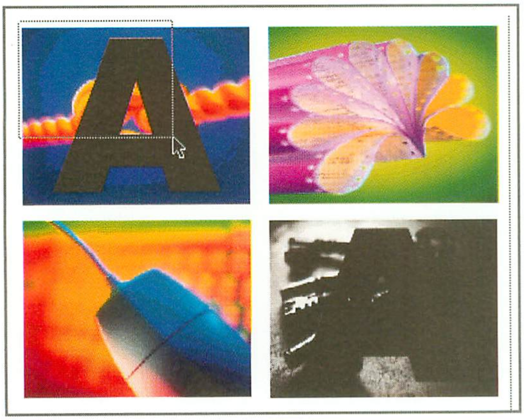


11 各自でアレンジしてみてください。

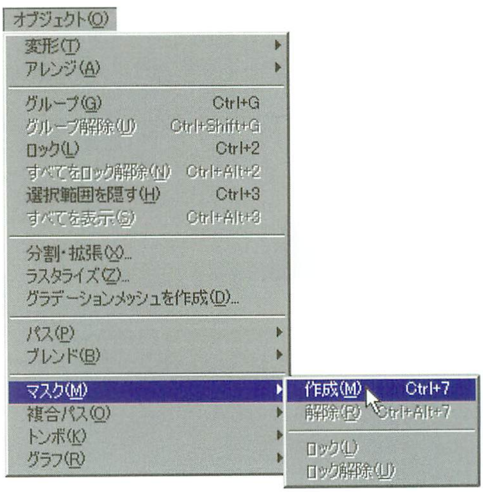
マスクを使う

図形や文字の中には別の画像などを入れることができます。このマスク機能を練習してみましょう。ここでは写真を配置したデータを使って練習します。特別付録CD-ROMの木曜日フォルダにある「マスク練習」というファイルを開いてください。

ここでは文字を使っていますが、図形でも同じように操作できます。文字の場合、マスクするときによくアウトラインにする人がいますが、アウトラインに変換しなくてもマスクは実行できます。アウトラインにしないほうが、あとから文字の直しができるので楽ですよ。



1 左上のAという文字写真を選択します。

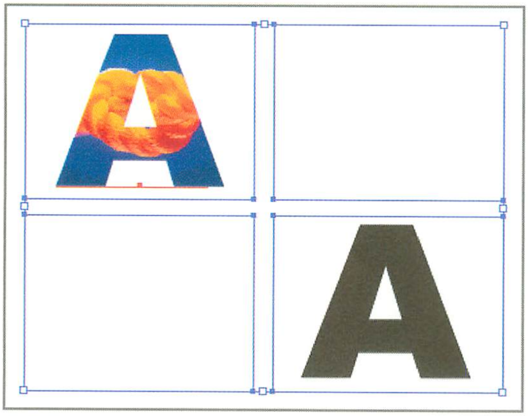


2 「オブジェクト」メニューの「マスク」から「作成」を選びます。

ここがポイント!!

マスクする図形とマスクされるものの関係

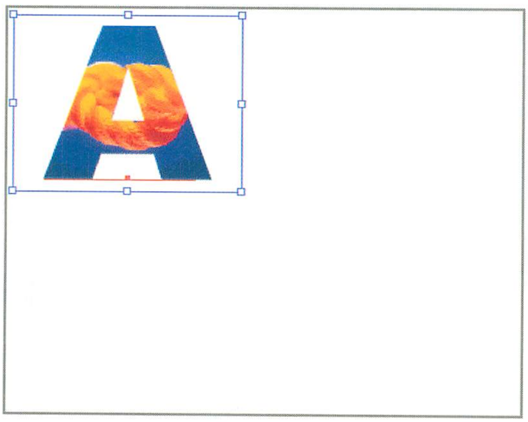
基本的にはマスクする図形とマスクされるものとは1対1の関係です。ですから、マスクを実行すると、そのマスク図形（ここではAという文字）の下にあるもの（ここでは4枚の写真）がすべて、Aの中にしか表示されなくなります。ひとつのファイルに複数のマスク図形が必要な場合は、「グループ」を使って、マスクの関係を明確にしておいてください。



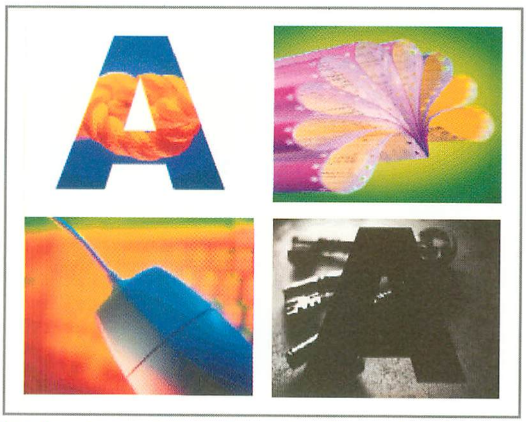
3 Aという文字の中に写真が入りました。しかし、他の写真も一緒に消えてしまいました。



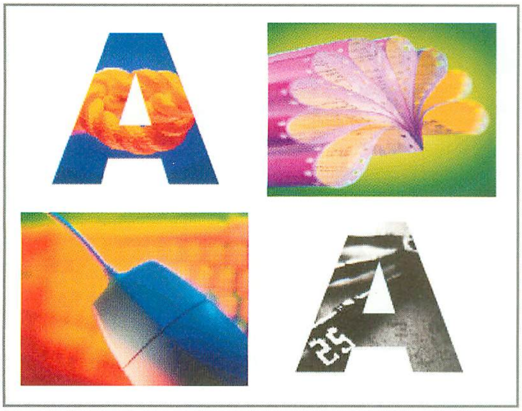
4 試しにAという文字を動かしてみましょう。これでわかりますが、写真は消えたのではなく、ちゃんと元に位置にあります。マスクをしたことによって、Aの中だけしか表示されないようになっているのです。



5 一旦、Ctrlキー＋Zで元の状態に戻してください。左上のAの文字は、この縄の写真1枚だけをマスクするよう設定をしましょう。Aと縄の写真を選択して、「オブジェクト」メニューの「グループ」（Ctrlキー＋G）を実行します。



6 これで他の3枚の写真は、左上のAという文字とは関係なくなりましたので、出てきました。

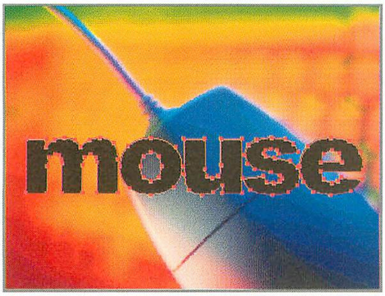


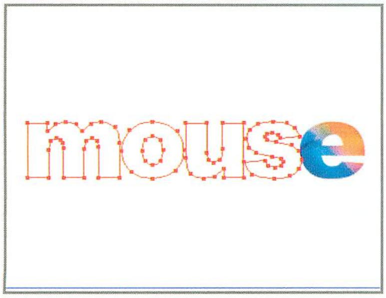
7 同様の手順で、右下のAとその下にある写真をマスクにしてみましょう。

☞ヒント!!

複数のオブジェクトにマスクする場合の注意

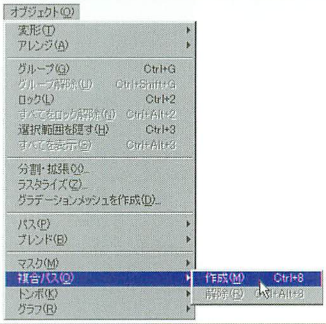
複数のオブジェクトにマスクをする場合は、そのオブジェクトをひとつのマスク図形として扱ってもらえるように、あらかじめ「複合パス」という状態にしておきます。なお、この説明用の練習データ「マスク練習コラム」がCD-ROMに収録してあります)。

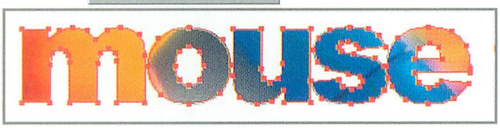




▲複数のオブジェクトは、そのままマスクを設定すると、一番上のオブジェクトだけがマスク図形になります。上が実行前、下が実行後。







▲一旦、複数のオブジェクトを選択して、「オブジェクト」メニューから「複合パス」を選んでください。これでひとつの図形として認識されます。その後にマスクを実行すると、ちゃんと複数のオブジェクトの中に写真が表示されます。

1 WEEK MASTER 4th DAY !!!
Thursday

STEP 2

準備編 ガイドラインを引く

これから学習すること

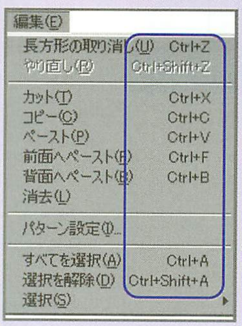
さて、ここからは実践テクニックを身に付ける練習です。Illustratorでは、機能がわかっただけでは実際のところ何もできません。どういう段取りで効率的に作業を進めていくかを覚えないと、仕事の役に立つ使い方はできませんからね。

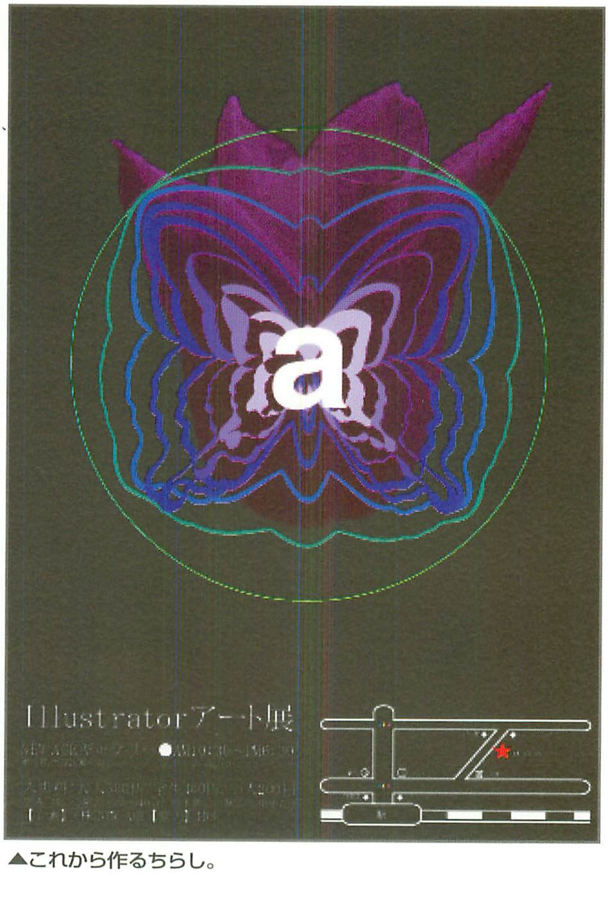
これから3日間かけて、ちらしを作成します。B5サイズのちらしに、必要な地図やメインビジュアルなどを作成し、レイアウトしていきます。

ここがポイント!!

ショートカットを使おう

実際の作業では操作が複雑になってきます。マウスを動かしてメニューをプレスしたり、ツールボックスを選択したりと、画面上をマウスが動き回ります。せめて、よく使う操作（コピー＆ペースト、保存、グループ、画面表示の拡大・縮小、手のひらツールにするなど）は、ぜひショートカットを使って効率的に作業を進めましょう。巻末にショートカット一覧を用意していますので参考にしてください。また、メニューにもショートカットが表示されるので参照にしてください。



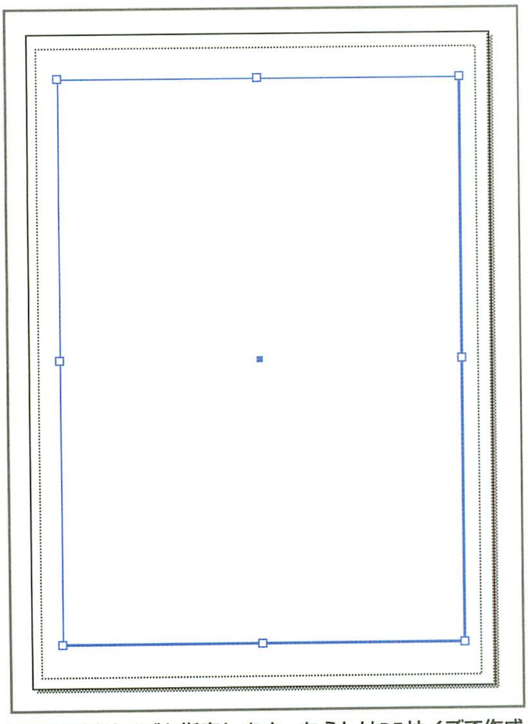


▲これから作るちらし。

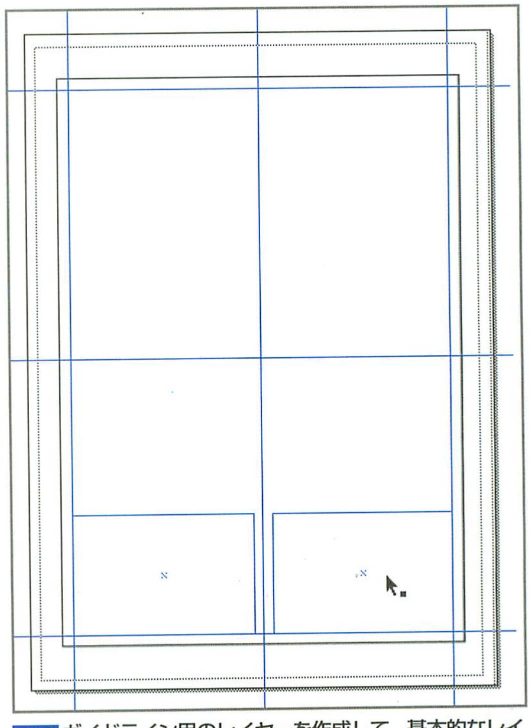
今日行うこと

今日はちらしの基本フォーマットを作ります。B5サイズの紙を用意して、文字や地図の入る位置をある程度決めるのです。そのフォーマットに従って、金曜日以降にちらしの形に仕上げていきましょう。

これからの練習では、手順のひとつひとつを正確に理解しようなんて思わなくて結構です。大ざっぱに全体の流れをつかんでもらえればそれで十分です。実践では、「機能を知っている」よりも「効率的な手順で作業できる」ことのほうが大事になってきますから。



1 用紙サイズを指定します。ちらしはB5サイズで作成しますので、最初にB5サイズの枠を作るところから始めます。

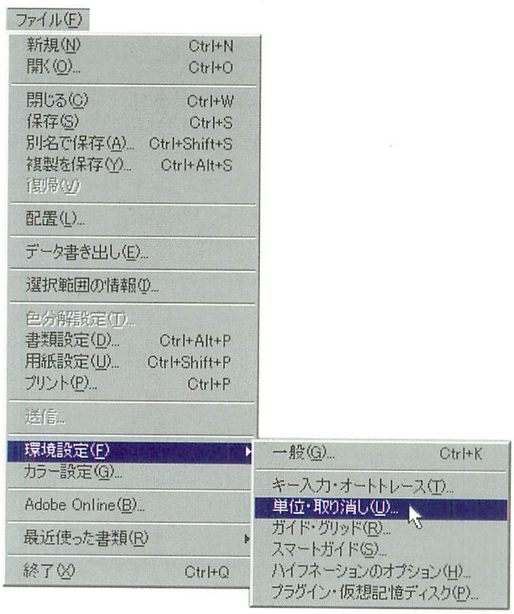


2 ガイドライン用のレイヤーを作成して、基本的なレイアウトのガイドラインを引いておきます。あとで、このガイドラインに沿って地図などを配置すればよいので便利です。

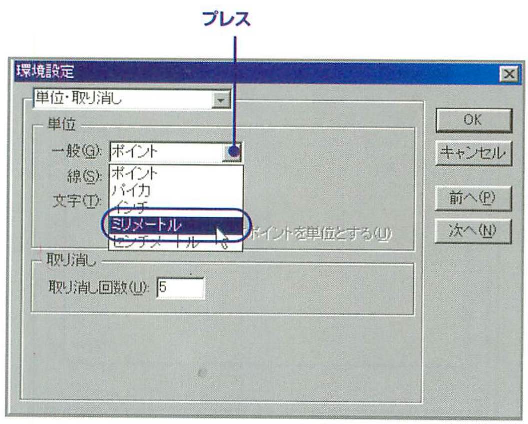
用紙サイズの指定

ちらしはB5サイズで作ろうと思います。Illustratorでは「ファイル」の「用紙設定」でB5に指定することもできるのですが、これはあくまでも「どのサイズの用紙でプリントするのか」ということであって、仕上がりサイズを決めることとは異なります。たとえばA4サイズしかプリントできないプリンタの場合でも、ちゃんとB5のちらしだということがわかるように、B5サイズの長方形を描いて、その中にレイアウトしていきます。こう考えるとわかりやすいでしょうか。適当な大きさのスケッチブックに、B5サイズの大きさだけ使って絵を描くのだと。

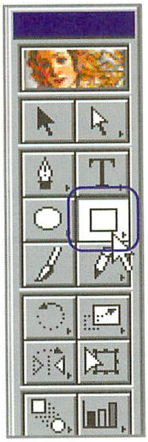
ここでは、正確に本書の通りに数値指定しないと、うまくいきません。本書では数値をミリ単位で指定しています。初めに単位がミリになっているかを確認してから、作業に入りましょう。



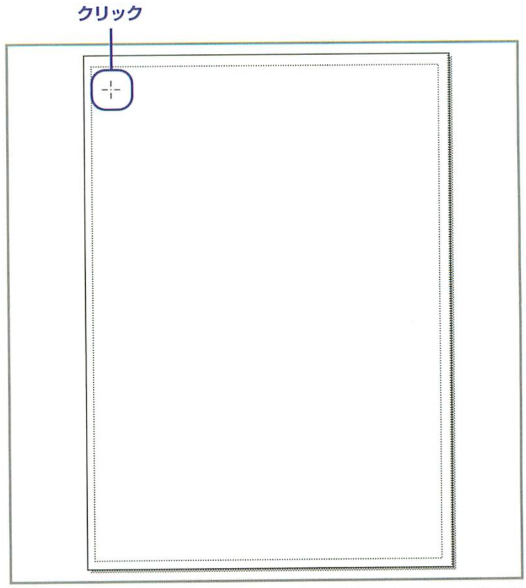
1 「ファイル」メニューの「環境設定」から「単位・取り消し」を選んでください。



2 初期設定では、単位の項目のすべてが「ポイント」になっています。単位をミリに変更しましょう。「単位」欄の「一般」をプレスして「ミリメートル」にします。「線」と「文字」はポイントのままにしておきます。「OK」ボタンを押してください。これで準備完了です。



3 では、B5サイズの長方形を描いてみましょう。ツールボックスの長方形ツールを選択します。



4 ここではサイズ指定で長方形を描きますので、用紙の左上でクリックしてください。

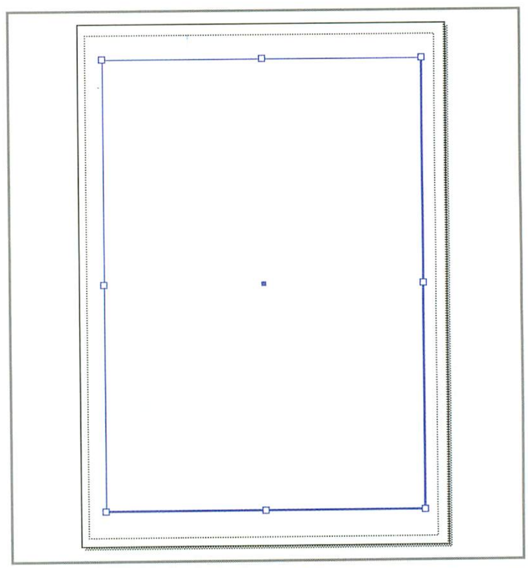
☞ヒント!!

単位は入力しなくてOK

ダイアログボックスに数値を入力するときは、単位は入力しなくても大丈夫です。「環境設定」で単位をミリメートルに指定していますので、自動的に「mm」で入力されます。



5 サイズ指定のダイアログボックスが出てきますので、「幅」に「182mm」、「高さ」に「257mm」と入力して、「OK」ボタンを押してください。



6 用紙の中に長方形が作られましたよね。なるべく用紙の中央に来るように位置を調整してください（選択ツールでドラッグ）。もし、大きさが違っているようなら、Ctrlキー＋Zで戻って、長方形を作り直してください。「塗り」は「なし」、「線」は「黒」にしておきます。

レイヤーの準備

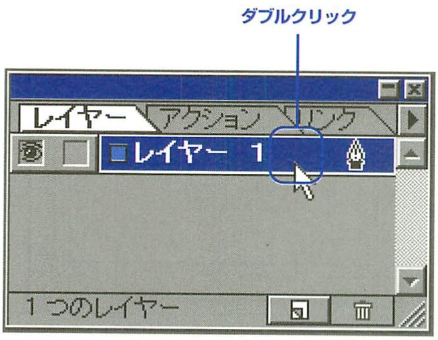
レイヤー機能は、複雑なものを作るときに重宝します。レイヤーとは「層」の意味です。レイヤーを使うと、図形や文字をいくつかの層に分けて作成することができます。作業に必要のない層を非表示にすれば、画面もすっきりして作業がしやすくなります。ここでは以下の2点を覚えてください。

(1) レイヤーの名前を変える

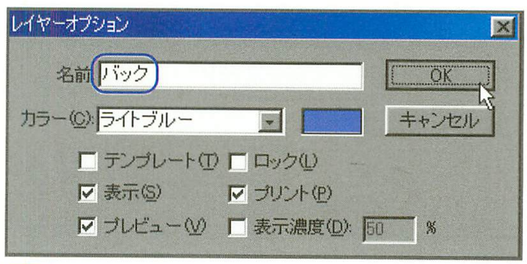
実はこれまで練習してきたものも、「レイヤー1」という名のレイヤーで作業していたのです。ここでは複数のレイヤーを使いますから、それぞれのレイヤーを区別しやすくするために、名前をわかりやすいものに変更しておきましょう。

(2) 新しいレイヤーを作る

新しいレイヤーを作る方法はいくつかありますが、ここではレイヤーパレットのパレットメニューを使う方法を練習します。



1 レイヤーパレットの「レイヤー1」というところをダブルクリックしてください。



2 「レイヤー1」の「レイヤーオプション」ダイアログボックスが出てきました。ここでレイヤー名などを変更することができます。「名前」に「バック」と入れて、「OK」ボタンを押してください。

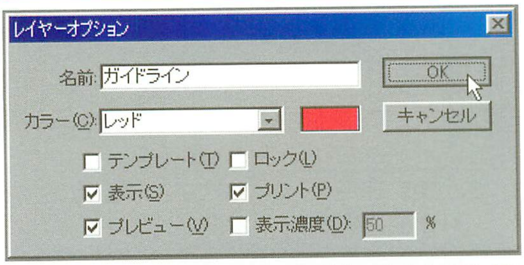


3 レイヤーパレットを確認してみましょう。名前が「レイヤー1」から「バック」に変わりました。

☞ヒント!!

新規レイヤーを作る別の方法

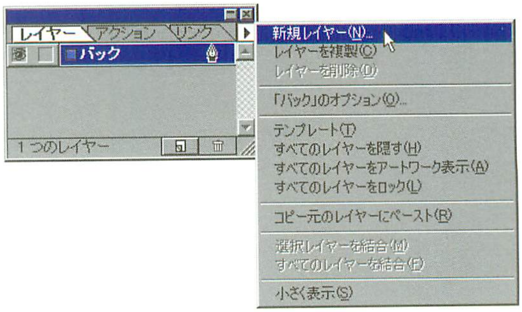
レイヤーパレットの「新規レイヤーを作成」アイコン をクリックしても、新しいレイヤーを作ることができます。ただし、この方法だと名前をつけるダイアログボックスが表示されませんが、追加されたレイヤーをダブルクリックすれば、ダイアログボックスが表示されます（124ページのコラム参照）。



5 レイヤーの名前をつける画面が出てきますので、「名前」のところに「ガイドライン」と入力してください。



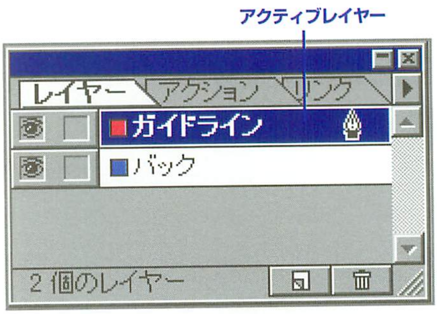
7 これから「ガイドライン」レイヤー上にガイドラインを引いていきます。「バック」レイヤーは使いませんから、間違って操作しないように、ロックをかけておきましょう。レイヤーパレットの「バック」の左側をクリックしてください。ロックされて、鉛筆に斜線が入ります。



4 それではガイドラインを作るために、新しくガイドライン用のレイヤーを作りましょう。レイヤーパレットのパレットメニューから「新規レイヤー」を選んでください。

☞アクティブレイヤー

選択されているレイヤーのこと。アクティブレイヤーにするには、レイヤーパレットでそのレイヤー名のところをクリックします。



6 これで新しいレイヤーが作成されました。反転表示されたアクティブレイヤーになっています。

ガイドラインを作成する2種類の方法

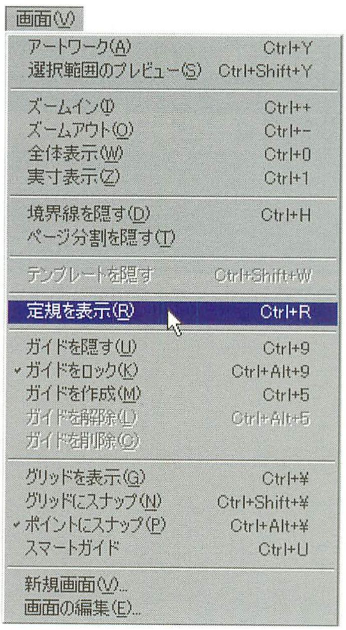
では、ガイドラインを引きましょう。ガイドラインは印刷はされない、レイアウトの目安とするためのラインです。ここでは、定規からガイドラインを出す方法と、図形をガイドラインに変換する方法の2種類を紹介します。

定規からガイドラインを出す

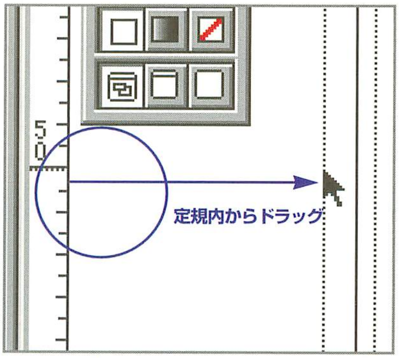
もっとも基本的なガイドラインの作り方は、ウインドウの上と左に表示される定規からガイドラインを作る方法です。用紙の中央と用紙の5mm内側にガイドラインを引いてみます。

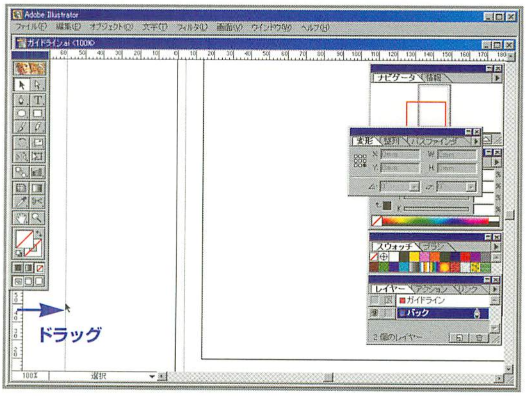
☞Ctrlキー＋R

定規表示のショートカットキーはCtrlキー＋R。rulerのRです。

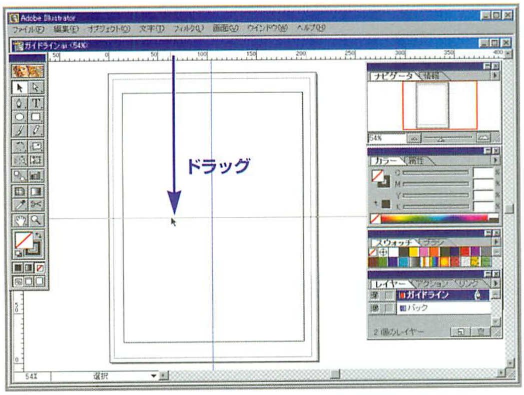


1 最初に、定規からガイドラインを出してみます。定規が表示されていない人は、「画面」メニューの「定規を表示」（Ctrlキー＋R）を選んでください。

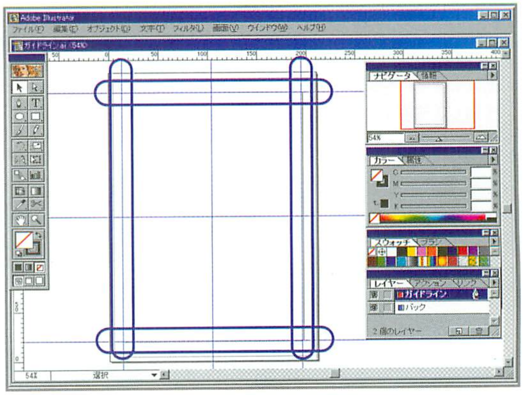




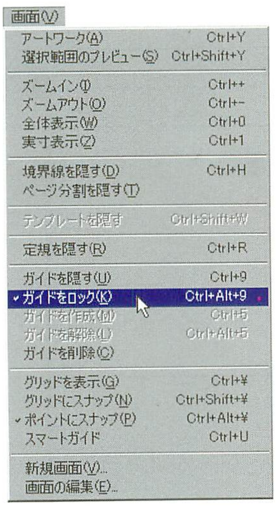
2 ウインドウの上と左に目盛りの入った定規が出てきますよね。そこから画面上にドラッグすると、ガイドラインを出すことができるのです。左の定規から用紙中央（上の定規で105mmの位置）へドラッグしてください。



3 今度は上の定規からガイドラインを出してみましょう。先ほどと同じように定規からドラッグして、用紙中央（左の定規で148.5mmの位置）へガイドラインを出してください。



4 今度は用紙サイズの内側5mmのところにガイドラインを引きたいと思います。まず、長方形の輪郭に合わせて、縦横2本ずつのガイドラインを引いてください。

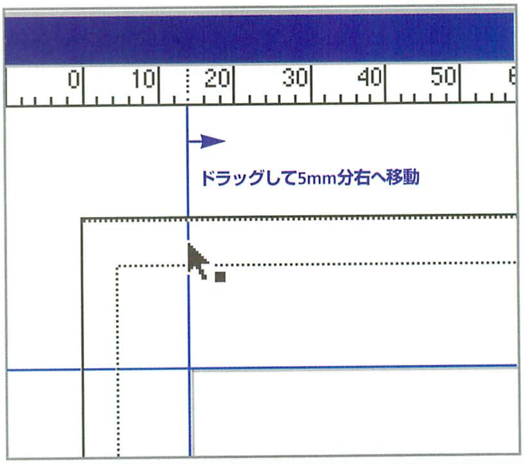


☞ヒント!!

メニューコマンドのチェックを外す

メニュー内のコマンドには、チェックがついているものがあります。これはそのコマンドが有効な状態であることを意味します。コマンドを選択することでチェックをつけたり、外したりできます。

5 ガイドラインを正確に5mm内側にずらすためには、初期設定でガイドラインにロックがかかっているのを外さなければいけません。まず、「画面」メニューの「ガイドをロック」のチェックを外します。



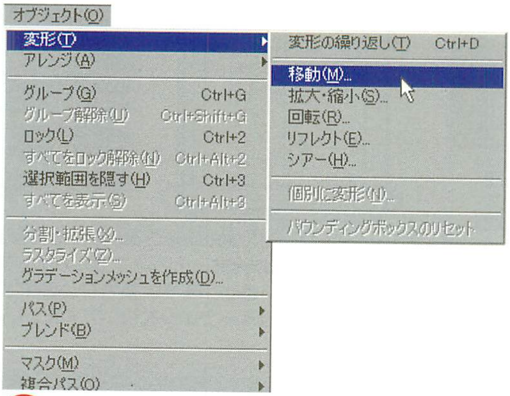


6 ガイドラインのロックが外れたので、ドラッグして動かすことができます。上の定規を見ながらドラッグして、内側に5mm動かしてください。「変形」ウインドウで数値を入力して移動することもできます。

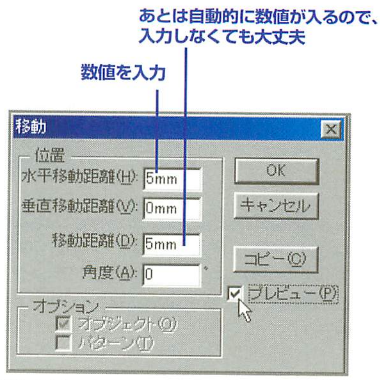
☞ヒント!!

移動距離を数値で指定する方法

ガイドラインを数値で正確に動かすには、「移動」コマンドのダイアログボックスを使います。もちろんガイドラインだけでなく、図形や文字に対して使用することもできます。



1 数値で正確に動かしたいなら、「オブジェクト」メニューの「変形」の「移動」を使ってください。必ず、動かしたいガイドラインを選択しておいてから実行してください。



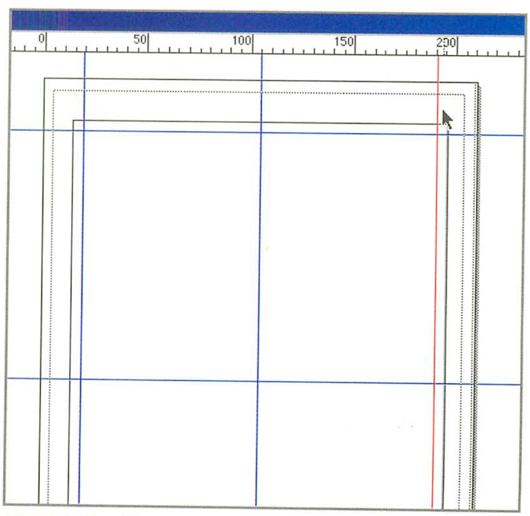
2 移動距離を指定するダイアログボックスが出てきます。ここで「水平移動距離」に「5mm」と入力して、「OK」ボタンを押します。「プレビュー」にチェックが入っていると、「OK」ボタンを押す前に、結果を表示してくれます。

☞ヒント!!

移動コマンドの数値設定

「移動」コマンドでは、右方向と上方向がプラス、左方向と下方向がマイナス数値で指定します。左や下へ移動させたいときは、数値の前にマイナスの符号をつけて入力してください。

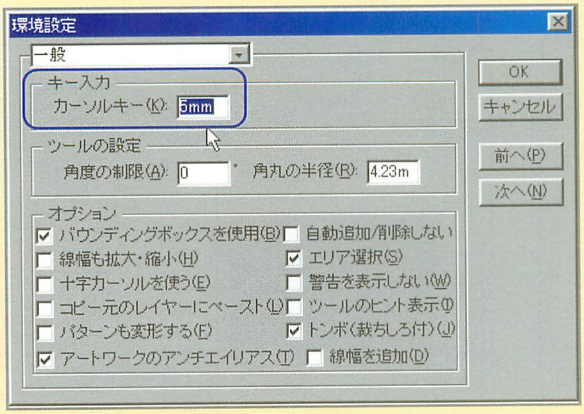




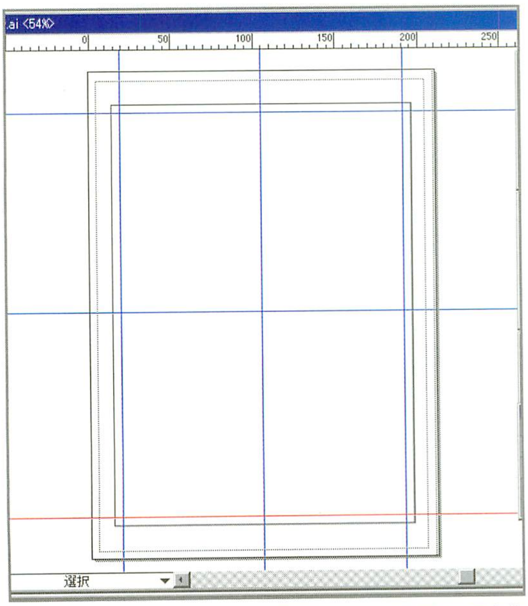
7 右側のガイドラインも同様に内側（左側）に5mm移動します。

ちょっとコラム 矢印キーでオブジェクトを移動する

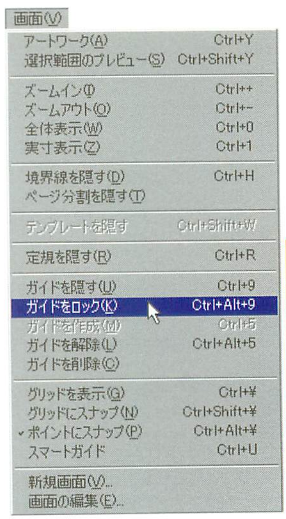
キーボードの矢印キーを使って、選択しているオブジェクトを動かすことができます。矢印キーを1回押したときの移動距離は、「ファイル」メニューの「環境設定」の「一般」を選択して、ダイアログボックスの「キー入力」欄で指定します。たとえば5mm単位で動くようにしたければ、「カーソルキー」の数値を「5mm」とします。もちろん「1mm」に指定して、矢印キーを5回押しても5mm移動させることは可能です。「移動」コマンドより感覚的にわかりやすいので、おすすめの機能です。



▲環境設定で移動距離の設定ができます。



8 上下のガイドラインも、同様に5mmずつ内側に移動させてください。



9 これでセンターと天地左右（上下左右）のガイドラインを作成することができました。間違って動かさないように、ロック状態にしておきましょう。「画面」メニューから「ガイドをロック」を選びます。

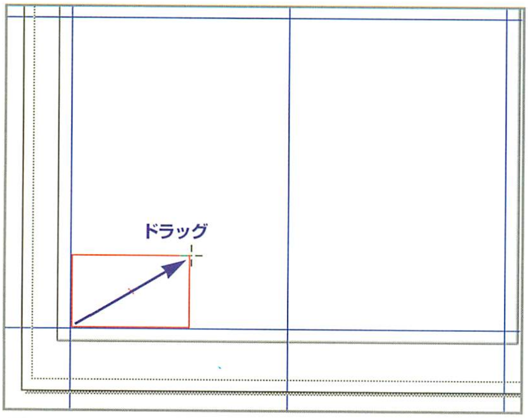
☞ヒント!!

ガイドラインは一括でロックされる

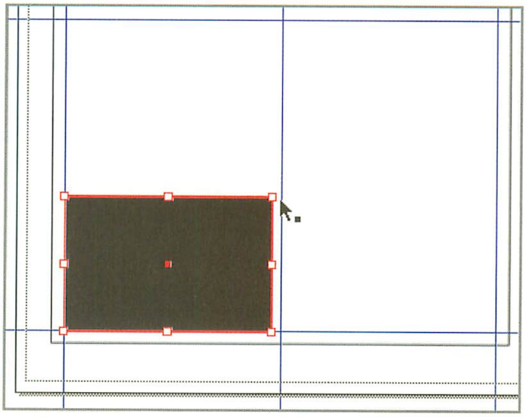
ガイドをロックするときは、特にガイドラインを選択しておく必要はありません。すべてのガイドラインがロックの状態になります。

図形をガイドラインに変換する方法

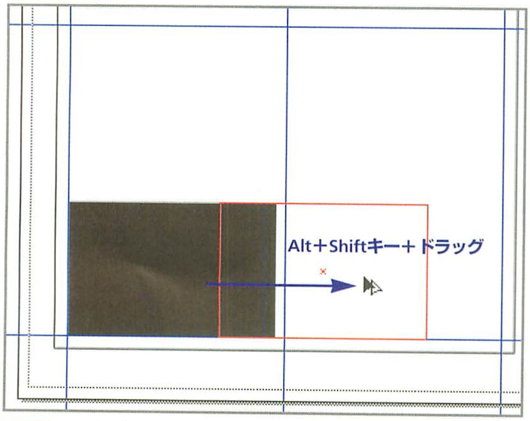
長方形を作って、それをガイドラインに変換することもできます。ペンツールで描いたラインや文字など、どんなオブジェクトでもガイドラインに変換することができます。ただし文字はアウトライン化してないと変換できません。



10 ツールボックスから長方形ツールを選び、左下のガイドラインに合わせて長方形を作成します。



11 選択ツールに切り替えて、長方形のサイズを調整します。横幅は、センターのガイドラインの少し手前まで延ばしてください（右端のハンドルをドラッグ）。



12 この長方形と同じものを右側にも作ります。同じ長方形を作るなら複製するのが楽ですよね。Altキー＋ドラッグで図形を複製することができます。Shiftキーも押しておくと、水平に動かすことができます。Shiftキーはドラッグをし始めてから押すのがポイントです。

ここがポイント!!

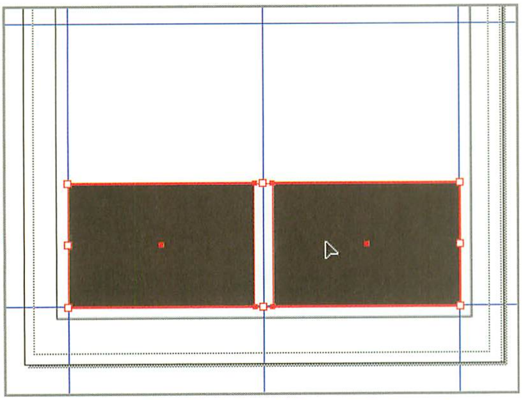
Altキーと Shiftキーの特別な意味

図形や文字を複製するときは、IllustratorではAltキー＋ドラッグを使います。もちろんコピー＆ペーストも使いますが、好きな位置に複製図形を作るには、Altキー＋ドラッグが絶対に楽！　さらにShiftキーを使うと、複製したものを真横や真下に作ることができます。Shiftキーはドラッグの方向を45度単位に制限する機能があり、これまでも何回か使ってきましたよね。AltキーやShiftキーはドラッグしてから押しても遅くありませんから、「忘れた」と思ったら、マウスボタンを離さずにAltキーやShiftキーを押し足してください。ただ、早く離すと効き目がなくなりますので、最後まで（マウスボタンを離すまで）しっかり押さえておいてください。

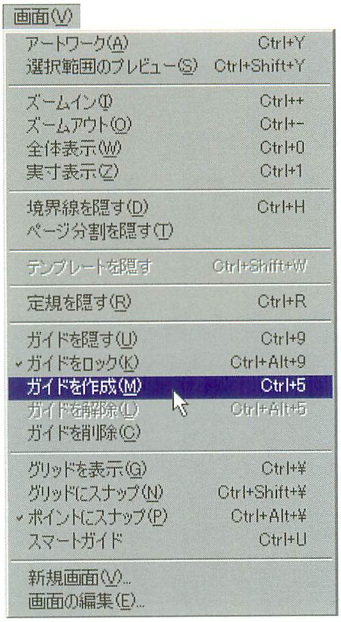
ここがポイント!!

正確な位置にガイドラインを修正

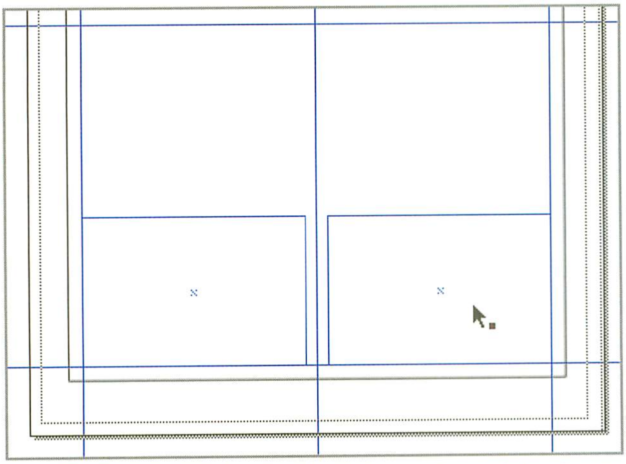
中央のガイドラインが2つの長方形の中間に来ないときは、「画面」メニューの「ガイドのロック」を解除してからガイドの位置を修正しましょう。修正が終わったら、またガイドをロックしておくのを忘れないでください。



13 この2つの長方形をガイドラインに変換しましょう。ガイドラインにすると色はなくなりますので、現在は何色になっていてもかまいません。2つの長方形を選択してください。



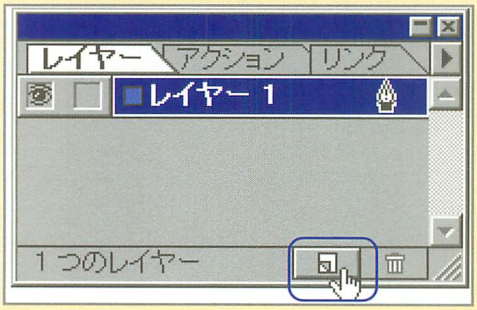
14 「画面」メニューの「ガイドを作成」（Ctrlキー＋5）を選びます。



15 長方形がガイドラインに変換されました。「チラシ」というファイル名を付けて保存しておきましょう。

ちょっとコラム　レイヤーパレットの使いこなし

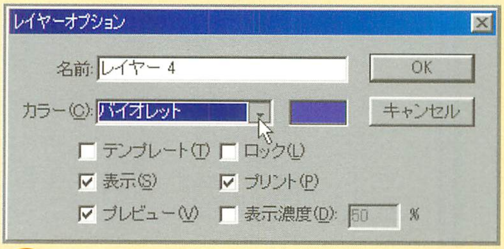
レイヤーパレットはパレットメニューを使いますが、もっとスピーディーに操作するために、さまざまなアイコンやショートカットが用意されています。ここでちょっとまとめておきますので参考にしてください。



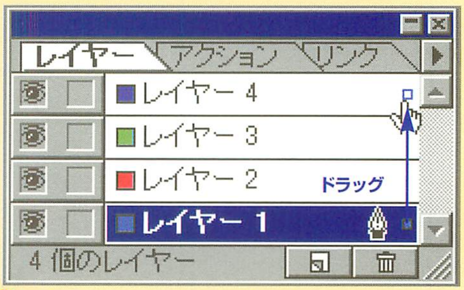
1 新しいレイヤーを作成するには、パレット下の「新規レイヤー」アイコンをクリックします。パレットメニューの「新規レイヤー」では「レイヤーオプション」ダイアログボックスが出てきましたが、アイコンでは自動的に「レイヤー2」「レイヤー3」と名前が付いていきます。実はこのアイコンをクリックするときにAltキーを押しておくと、「レイヤーオプション」ダイアログボックスを出すことができるのです。



2 「レイヤーオプション」ダイアログボックスは、レイヤーパレットの目的のレイヤー名をダブルクリックしても出すことができます。



3 「レイヤーオプション」ダイアログボックスでは、レイヤーの「名前」、選択時に表示されるポイントなどの「カラー」を指定できます。「表示」と「ロック」はレイヤーパレットの目と鉛筆マークにあたります。「表示濃度」は画像を取り込んだときに濃度を調整するために、「テンプレート」は、画像を下絵として利用するときに半透明にするために、ここにチェックを入れます。



4 別のレイヤー上にあったオブジェクトを、他のレイヤーに持っていきたいときは、そのオブジェクトを選択して、レイヤー名のペンのわきの四角を移動先のレイヤーへドラッグします。